

学んだロケット理論実践

秀峰中 工学特別講座

松本市埋橋2の松本秀峰中等教育学校はこのほど、同市新村の松本大学グラウンドでロケット工学特別講座を開いた。4年生15人が、埼玉県のNPO法人・日本モデルロケット協会長の山田誠さんの指導で、ロケットの模型を作って飛ばし、構造や発射の仕組みについて学んだ。

ロケットの模型を
発射台に設置する
生徒たち



講座では、教材用の
直径2・5センチ、長さ30

センチの「モデルロケット」を製作した。本体にパラシュートや火薬エンジンなどを順番通りに詰めて完成させた。

グラウンドに発射台を置いて、実際に打ち上げた。生徒たちは自作のロケットが真っすぐに飛んで風に流されないようにするために、風向きを確かめて機体の角度を決めて装着した。発射ボタンを

押すと機体は時速180キロの速さで上空に上がった。小林颯介君(15)は「風の向きを読んでロケットをどう傾けておけばいいかを考えた。思い通りに飛んでうれしい」と話していた。

科学技術振興機構の教育支援事業として開催された。受講者は7月に茨城県のJAXA筑波宇宙センターを見学する。

(石川鮎美)